

「第2回防災・減災講座」  
防災についてのフリートーク(グループ別)

<A グループ>

隣の自治会が防災活動を行っていることが分かった。自分の自治会はどうだか分からない。  
近所の人たちは防災に関心がないようだ。  
防災訓練に参加した事はない。  
防災に関して色々な情報が入ってくるが、何(誰)を信じたらいいのか？  
鴨居のマンションに住んでいる。若い人が多いが防災への関心が高い。  
停電のときはエレベーターが止まって大変だ。  
突っ張り棒で家具を固定しているが、完全かどうかはわからない。  
東日本大震災では、管理人が1人でテンテコマイだった。  
このような時、中々手伝いはできないものだ。

<B グループ>

築40年で、オール電化にしたが、計画停電で役に立たなかった。  
防災拠点の線引きが難しい。  
鶴見川の近くだから洪水が心配→現在は50mm/hrまでは大丈夫。  
災害時、情報をどう集めていかに伝達するか。  
携帯が使えないときにはトランシーバーが役に立つ。  
動けない人(要介護者)を把握する必要がある。  
地割れ・山崩れなどの場合はどうすればよいか？  
道路上にマンホールなどの危険箇所(吹き上がる?)があり、避難所まで行けない可能性がある  
(事前に知っておく必要がある)。  
避難所には住民全員は入れない(5%くらい?)→住んでいるところが安全なら行く必要はない。  
避難するときは、事前に状況を確認しておくべき。  
黄色い旗(安否確認)は良い方法だ(手間が省ける)  
山下の消防団では、各自 自分の家の確認をしている。

<C グループ>

自治会の人以外は防災活動に参加しない。興味が無い人をどうするか？  
→現実的な対応で関心をもってもらう。身近な活動を通して声かけを行う。  
車椅子(歩けない)の人への対応が必要だ。  
ささえ愛カードを強制的に書かせる。もっと利用出来るようにしないとイケない。  
災害が起こったとき、自治会未加入者が危ない。  
各住民までの情報連絡体制を確立すべし。  
マンション・一般住宅を考慮した防災体制の見直しを。  
防災活動は具体的に。老・壮・青・男女のバランスの良い参加が必要。  
緑区に震度7の地震が起きたら、現実にはどんな災害が発生するのか？

<D グループ>

災害に備えて1週間分の備え(食料・水)は普段から用意しておいた方がよい。  
→病名や処方箋を書いたものを身に着けている。  
家庭防災員・自治会の役割が理解できた(気がする)。  
出来るだけ防災拠点には行かない方がよい(自宅で生活する自助努力を)。  
帰宅困難者にならぬために、災害時には勤務先にとどまる(企業備蓄を、生協の役割は?)。  
活動している状況が市民に伝わらず、関心を得られない。

ささえ合いカードを拒む人をどうするか→自己責任だから助けなくて良いのでは？  
(行政の問題ではない)

#### <E グループ>

考える防災(想像力)を目指そう。

地域を見直そう(どこが危ないか、どこへ逃げられるか)

少なくとも自分(の家)が火元にならないように。

災害への備え・・・自分の家は OK だが各家庭でもやっているか確認する必要がある。

避難所や防災拠点を通信するな(水・食料・トイレは不十分)

区境の人は、まず近くの拠点へ(配給はもらえない)

避難所は公的設備(学校・公民館 etc)だけでは不十分。近所のスーパー・大規模商店・宗教施設などと協定を結んでおいたらどうか。

以上

#### ● 各グループ進行担当:

A グループ(7 名):成松 洋さん

B グループ(7 名):中村茂久さん

C グループ(8 名):田中 晃さん

D グループ(6 名):田中喜世美さん

E グループ(6 名):樋口 誠さん

記録:樋口 誠

2012-11-13